

磯之於尔	生流馬酔木乎	手折目杼	令視倍吉君之	在常不言尔	万葉集 卷二 166 大伯皇女
磯の上に	生ふる馬酔木を	手折らめど	見すべき君が	在りと言はなくに	
いそのうへに	おふるあしびを	たをらめど	みすべききみが	ありといはなくに	
岸のほとりに	生えている馬酔木を	手折っても	見せるはずのあなたが	生きているとは 誰も言ってくれない	